

平成19年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	NPO団体等と連携したニートに対する自己確立とコミュニケーション能力を高める演技・演劇による職業教育プログラムの開発		
法人名	学校法人 東放学園		
学校名	専門学校 東京アナウンス学院		
代表者	理事長 理事長 木下 豊	担当者 連絡先	専門学校東京アナウンス学院・学務管理部 勅使川原 美鈴 TEL 03-3375-4141
<p>1. 事業の概要</p> <p>「NPO団体等と連携したニートに対する自己確立とコミュニケーション能力を高める演技・演劇による職業プログラムの開発」のため、ドラマケーションやインプロ等、演技の基礎的アクティブメニューを参考に、ニートやフリーターの方が自己確立と自己表現を高め、自身を持って社会に一步を踏み出すための研究開発をおこないました。</p> <p>自分はどうしたいという気持ちを伝えるプログラムは、演技演劇の基本的要素です。「からだをほぐし」「こころを解放する」ことは、自然なかたちで自分を知ることとなります。そして、自分を知り、自分を認めることによってはじめて他者との関係を持つ(コミュニケーションをとる)ことができるのです。今回の事業では、「自分を意識し認め、自分に自信を持つ」プログラム作りに重点を置き、他者との関係をとるメニューから自分を表現するメニューへと発展的な開発を試みました。全国9箇所の若者サポートセンターと連携し、アクティブメニューの実証実験を行い、各地域の現状及び要望を把握し、参加者のアンケート調査を行い、実情に即したテキスト作りをおこないました。</p>			
<p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>上記の目的を達成するため、全国9箇所の若者サポートセンターや自立塾の協力を得て、実証実験によるテキスト作りをおこなったわけだが、二次募集での委託事業の認可が9月下旬だったため、実証実験をさせていただくサポートセンターとのスケジュール調整が難航してしまいました。関西地区での調整が難しく、実施できなかったのが残念です。12月に入ってから急な要望を、沖縄自立塾が快く受け入れてくれ、北海道から沖縄まで日本列島を縦断しての実施が可能となりました。テキストの内容も、単にコミュニケーション能力を高めるための指導書に終わることなく、ニートに対する認識を深め、各地域におけるサポートセンター等の取り組みの現状を、幅広く世の中の人に認識していただけるものと確信しています。</p> <p>②事業により得られた成果</p> <p>ニートやフリーターの自己確立をうながし、コミュニケーション能力や表現力を高めるためのテキスト作りとして、「遊び」の要素の強いアクティブメニューをえらび、カテゴリーを4つに分類し、段階的にコミュニケーション力・自己表現力が身に付くように工夫してあります。</p> <p>カテゴリーA はじめに(導入部)・・・場を和まし、心身をリラックスさす。</p> <p>カテゴリーB 自分を知ろう・・・自己確立をうながす。</p> <p>カテゴリーC 相手を知ろう・・・コミュニケーションを図る。</p> <p>カテゴリーD 表現しよう・・・身近なことから表現できるように。</p> <p>「遊び」の中には、上記のカテゴリーを体得するための要素が含まれており、参加者が知らず知らずのうちに、各カテゴリーを身につけられるようになっていきます。また、メニューを実施するうえでのファシリテーターとしてのポイントを詳しく解説してありテキストとして活用しやすくできています。 (詳しくは、テキスト<不本意に「ニート」「フリーター」にならないために>を参照してください)</p> <p>③今後の活用</p> <p>テキスト(教材)については、ぜひ各若者サポートセンターや自立塾の職員の方や、ニート、フリーターの予防のためにも教職員の方たちに活用していただきたいと思います。コミュニケーション力や表現力の不足は、ニート・フリーターに限らず、いまや社会的な問題となっています。日本の国を左右しかねない大問題です。人を人として認める、社会全体の心のあり方が問われているのだという認識を実感する必要があります。</p> <p>テキストは、導入部から表現能力を高める段階まで、形式上順番に配列してありますが、参加者の状況を見て、どの段階からはじめても支障はありません。場の雰囲気や和ませるという意味では、導入部からはじめるのがいいと思います。またメニューの種類も、今回取り入れられなかったメニューが数多くありますので、機会があれば何かの形でお伝えできればと思っています。また、実施にあたっては、ファシリテーターがいろいろと工夫して、紹介しているメニューから発展的な楽しいメニューを作っていただければ幸いです。</p> <p>実施にあたっての重要なポイントは、ファシリテーターとしての確に指導するというのではなく、参加者と一緒にメニューを楽しむということ、一緒に遊ぶということ。遊びの中に内在する、人を解放し、集中し、表現力をたかめ人間力を培う力を信じるのが大切なのです。決して、理屈で理解させようしたり、無理強いをしたりせず、楽しく一緒にメニューを共有してください。参加者は何かに気づき、何かを感じているはずなのです。この体感的カウンセリングとも言うべき方法は、ドラマケーションの手法によるところが大きい。失敗を恐れず、ぜひいろんな機会にメニューを試してください。</p> <p>④次年度以降における課題・展開</p> <p>今回、メニューの実証実験として全国9箇所で体験していただいたが、川口・立川を除いては、1回限りの体験でした。やはり十分な効果を見るには、何回か経験してもらい、当事者に合ったレベルの調節が必要です。また、ファシリテーターとして、このプログラムを利用してくださるサポートセンター等の職員の方の養成が急務だと思われます。</p>			

3. 事業の実施に関する項目

①ニーズ調査等

(1)調査の本稿は、「専修学校におけるNPO団体等と連携したニートに対する職業教育支援事業」を通して、ニート状況にある若者に実施された「教育プログラム」の効果の検討を試みるものである。

現在、わが国では、フリーター・ニート対策は重要な検討課題の1つであると考えられる。

ニート支援の拠点でもある「地域若者サポートステーション」(厚生労働省がNPO団体等に運営を委託)も全国各地に存在し、さまざまな活動を展開している。そのような状況の中、ニート状況にある若者への支援を意義のあるものとして確立し、それをさらに発展させていくためには、そこで展開されたプログラムの効果を、客観的指標をもとに明らかにしていくことが必要である。しかしながら、ニート状況にある若者への支援の効果、客観的な指標を用いて検討したケースは未だ数が少ないのが現状である。たとえ実際に効果のあるプログラムであっても、それを内外に広く普及させていくためには、主観的評価だけでは不十分と言わざるを得ない。また、本稿では、プログラムの効果の検討に加えて、講師の適任さ、日程・時間配分のみならず、内容のわかりやすさ、全体の雰囲気等と、プログラム全般の評価についても、参加者からの評価をもとに検討を試みる。

本稿がニート状況にある若者への支援の発展に少しでも貢献できれば幸いである。

(2)方法

教育プログラムの概要

プログラムそのものは、演劇的手法を用いたワークショップである「ドラマケーション」(東放学園、2006、2007)をもとに構成されたものである。ただし、ここではその詳しい内容は省略する。

◆調査対象

日本国内全11ヶ所で実施された教育プログラムへの参加者のうち、アンケートへの回答に記入の不備が見られなかった参加者である。プログラム全般の評価に関するアンケートには94名(男性60名・女性24名・不明10名、平均年齢26.0±6.4歳、年齢幅15～50歳)の参加者から、プログラムの効果に関するアンケートには81名(男性62名・女性18名・不明1名、平均年齢25.8±6.2歳、年齢幅15～39歳)の参加者から回答があった。

◆調査時期

2007年10月下旬から2008年1月中旬にかけて実施された。

◆調査内容

プログラム全般の評価に関する調査項目 参加者によるプログラム全般の評価は、以下に示す10項目から行った。項目の評定は「1:当てはまらない～4:当てはまる」の4段階の自己評定で行い、評定値が高いほどプログラムへの評価が高いと解釈される。

【プログラム全般の評価に関する調査項目】

全体として満足している

内容はわかりやすかった

個々のメニューはおもしろかった

講師は適任だった

日程・時間配分はよかった

気持ちが軽くなった

全体の雰囲気はよかった

自分にとってこういう体験は必要

終わった後エネルギーがわいてきた

また参加してみたいと思う

【教育プログラムの効果に関する調査項目】

「自分自身に対する自信」の調査項目

私は物事を人並みにうまくやれていると感じる

私は自分自身には満足を感じる

私は自分自身に対して肯定的であると感じる

私は人並みに価値のある人間であると感じる

私には色々な良い素質があると感じる

「人間関係に対する自信」の調査項目

私は初めて会う人にでもうまく自己紹介ができると思う

私は誰とでも気軽に話ができると思う

私は同年代だけでなく、年上年下ともうまくやっていけると思う

私は相手にしてほしいことをきちんと説明できると思う

私は人にうまくアドバイスができると思う

私は誰とでも仲良くできると思う

私は相手とよく話のやりとりができると思う

◆手続き

プログラム全般の評価に関するアンケートには、プログラムの実施後に回答してもらった。また、プログラムの効果に関するアンケート(無記名式)には、プログラムの実施前後に回答してもらった。

◆統計処理

特に、教育プログラムの効果については、上に示した12項目のプログラム実施前後における平均値を比較し、その差が統計的に有意であるかを、t検定(対応のあるサンプルのt検定)を用いて検討した。なお、5%有意水準のもと、分析にはSPSS11.0J for Windowsを使用した。

(3)結果と考察

参加者によるプログラム全般の評価結果

図1には、プログラム全般の評価に関する10項目の平均値を示している。目盛りは「4.0」が最大、「2.5」が中間である。順に見ていくと、最も平均値が高かったのは、「講師は適任だった」の「3.66」、反対に最も平均値が低かったのは、「終わった後エネルギーがわいてきた」の「3.07」であった。ここで、最も平均値が低かった「終わった後エネルギーがわいてきた」の項目について補足すれば、演劇的手法をもとに展開された今回の教育プログラムは、大半の参加者にとっては初めての経験であり、そこで多くのエネルギーを消費してしまったため、プログラム実施後に「エネルギーがわいてきた」という感覚は抱きづらかったのかもしれない。しかしながら、全体的に項目の平均値は、最も評価の高い「4:当てはまる」に近い「3.5」前後の値であることから、今回、職業教育支援事業の中で実施された教育プログラムは、さまざまな側面から好意的に評価されていたと言えるだろう。

②カリキュラムの開発

コミュニケーション能力向上のためのアクティブ・メニューの実施

コミュニケーション能力向上のためのアクティブ・メニューは、平成19年度文部科学省委託授業「専修学校におけるNPO団体等と連携したニートに対する職業教育支援事業」の一環として開発されたものです。職業教育とはいっても、職業に即役立つ技能の習得ではなく、何らかの原因でひきこもったり、職場での人間関係によって精神的に悩んだ経験を持つニートやフリーターの方々を対象に、自分を認め、他者との関係をとり、社会との積極的な関わりをうながすコミュニケーション能力を高めることを目的としたプログラムです。

演技・演劇の基礎訓練の中には、コミュニケーションをとるアクティブ・メニューが数多くあります。これはごく当然のことで、相手役なくしてはお芝居が成立しないからです。我が儘を言って自分だけが目立とうとしても、惨めな結果が待っているだけです。この、自分に気づいたり相手との関係をとるアクティブ・メニューの中から、「遊び」の要素の強いものを選べ、4つのカテゴリーに分類したのが今回のアクティブ・メニュー集です。

4つのカテゴリーの概要

3.4つのカテゴリーとアクティブ・メニューの分類

4つのカテゴリーとアクティブ・メニューの分類は、A.<はじめに>(導入部)、B.<自分を知らう>、C.<相手を知らう>(コミュニケーションをとる)、D.<表現しよう>、<応用>に分類し、さらに、アクティブ・メニューを以下のようにしました。

3.4つのカテゴリーとアクティブ・メニューの分類

4つのカテゴリーとアクティブ・メニューの分類は、A.<はじめに>(導入部)、B.<自分を知らう>、C.<相手を知らう>(コミュニケーションをとる)、D.<表現しよう>、<応用>に分類し、さらに、アクティブ・メニューを以下のようにしました。

◆カテゴリーA <はじめに(導入部)>

- ①「好きな色で自己紹介」 ①-a.「たこ紹介」 ①-b.「そうだと思う人集まれ」
- ②ウォーキング ③「順番に並ぼう」
- ④ジャンケン遊び」 ⑤「送る①」
- ⑥「送る②」 ⑦「エイトカウント」

◆カテゴリーB <自分を知らう>

- ①「体の癖」 ②「指の運動」
- ③「背中倒し」 ④「振り子」
- ⑤「カウントダウン」 ⑥「太極拳風呼吸法」
- ⑦「風送り」 ⑧「コトコトナビ」(五感で感じる＝ブラインドウォーク)

◆カテゴリーC <相手を知らう(コミュニケーションをとる)>

- ①「背中で会話」 ①-a. 背中にのせる
- ②「鏡」 ③「主人と従者」
- ④「和になろう」 ⑤「20の扉」
- ⑥「私は誰？」 ⑦「カウントアップ」

◆カテゴリーD <表現しよう>

- ①「頭どりから二つのことばへ」 ②「色んな〇」
- ③「だんだん」 ④「巡る出会い」
- ⑤「イス立たせ」 ⑥「人間彫刻」
- ⑦「ボイスフラッシュ」 ⑧「顔の運動」

<応用>

- ①「発声法」 ②「ロールプレイによる面接」

4.アクティブ・メニューの開発

カテゴリーA <はじめに(導入部)>

- ①「好きな色で自己紹介」

※詳細は報告書第4章を参照して下さい

③実証講座

上記のカリキュラム開発の為、平成19年10月25日～平成20年1月19日まで下記の場所にて実証と講座を開催しました。

実証実験講座

- | | | |
|-----------------|--------------------------|----------------------|
| 1 (10/25)【第1回】 | 栃木県宇都宮市・栃木総合文化センター | 男性(9) 女性(2) 年齢15～33 |
| 2 (10/30)【第2回】 | 埼玉県川口市・若者自立支援センター埼玉(1回目) | 男性(10) 女性(3) 年齢23～39 |
| 3 (11/15)【第3回】 | 佐賀県・さが若者サポートステーション | 男性(8) 女性(3) 年齢16～23 |
| 4 (11/24)【第4回】 | 東京都立川市・高松学習館(1回目) | 男性(5) 女性(3) 年齢15～32 |
| 5 (11/29)【第5回】 | 埼玉県川口市・若者自立支援センター埼玉(2回目) | 男性(6) 女性(5) 年齢21～39 |
| 6 (11/30)【第6回】 | 群馬県前橋市・ぐんま若者サポートステーション | 男性(9) 女性(3) 年齢16～33 |
| 7 (12/4)【第7回】 | 北海道札幌市・豊平勤労青少年ホーム | 男性(5) 女性(1) 年齢21～35 |
| 8 (12/7)【第8回】 | 神奈川県横浜市・ヤングジョブスクエアよこはま | 男性(5) 女性(1) 年齢27～32 |
| 9 (12/15)【第9回】 | 東京都中野区・専門学校東京アナウンス学院 | 男性(5) 女性(1) 年齢20～30 |
| 10 (1/10)【第10回】 | 沖縄県沖縄市・沖縄市プラザハウス研修室 | 男性(6) 女性(3) 年齢16～35 |
| 11 (1/19)【第11回】 | 東京都立川市・柴崎学習館(2回目) | 男性(7) 女性(3) 年齢19～26 |

受講者の反応:予想以上の効果があり、サポートセンターの職員の方も普段見られない明るい表情や大胆な表現に驚いていた受講者の感想にも「一度きりで終わってしまって残念だ。機会があればまた参加したい。」「新しい自分が発見できて楽しかった。」「という好意的な感想が多かった。

④その他

全国9箇所、沖縄から北海道まで日本列島を縦断して実証実験を行い、現地のサポートセンターの実情や参加者の状態等を考慮しつつ、実用的に利用できるテキスト作りを目指しました。アクティブメニューの4つのカテゴリー分けやメニューの配列も、参加者の体力的な問題や集中力を考えて、リラックスして楽しく体験できるようにしてあります。楽しみながら知らず知らずのうちにコミュニケーション力・自己表現力が身につくようになっています。